



中高生とともに差別と闘う

『人権学習は学力を上げる』

吉成タダシ（うずしおブランチ代表）



人権学習は学力を上げる

「人権学習は学力を上げる」と言われて、あなたはスツと飲み込めますか。「みんなが満点をとれる」ということを言っているのではありませんし、「みんなが東大に行ける」というのもありません。

ちよつと言葉たらずな言い方になったので、もう少し言葉を変えて言い添えると、「人権学習は、その人の持つ持っているポテンシャルを最大限に引き上げてくれる」ではどうでしょう。それぞれの持っている潜在能力をMAXまで引き上げてくれるということです。だから効果が出るのは学力だけではありません。あらゆる事象について効果が上がるということになります。これならどうでしょう。それでもしつくりこないでしょうか。

「勉強しなさい」と言われてあなたはしますか？ してきませんでしたか？ 素直にしたかもしれないし、嫌々でも「しなければいけない」からしたかもしれない。でも多くの場合は、やらなかったか、やれなかったのではないでしょう。なぜやらなかったのか、やれなかったのか。それは、やるための動機づけが見つけられなかったからではないですか？

動機づけ。人権学習をすると、動機が得られるのか、「やろう」と思えるのか。ここで言う人権学習のなかには、様々な人権課題の他に平和学習や環境学習なども含まれますが、そこでの生きた学び、例えば当事者からの切実な話を聞

いたり、体験的な学習をしたりすることで、自分事として引き寄せられれば――。互いに語り合うなかで、つながり合うことができば――。

当ててくたさい

今春、勤務校を異動になりました。長年いれば、「あの先生はこんな人」と、何となく分かり合えるのですが、それがありません。ゼロからのスタートです。「この先生はどんな人だろう。当たりだろうか、はずれだろうか？」手探りだったと思います。

先日、授業に行っている唯一のクラスの生徒が寄って来て言いました。

「先生、発表では待ち時間が無駄になるので、当ててくたさい」

年度初めに私は話しました。

「授業はみんなで作るもの。一方的に話すだけの授業はしたくない。だからといって当てることも極力したくない。みんなの発表で授業を進めたい。みんなに自分の授業を作ってもらいたい」

しかし自分たちは積極的な学年ではないから、あまり手が挙げられないと言っています。だから当てるほしいと。「分かりました。少し全体に話をしますね」と言いつて、授業が始まってすぐに語りかけました。

「どんな授業も人権学習です」

これも年度初めにしたフレーズです。

「目の前でいじめや差別を目撃したら、みんなはどうするだろうか。

止める、声をあげる、先生に言いに行く、いろんな方法があるでしょう。でも何もできないかもしれない。けど、止められない、声をあげられない、その場を離れる、見て見ぬふりをする。それでは何の解決にもつながらない。つまり、いじめや差別はそのままだになる。やはり何らかのアクションを起こせる人であってほしい。

皆さんは積極的ではないかもしれない。だからといってその力を諦めてしまえば、積極的になれないままになる。積極的でないのであればなおさら、授業でもその力をつける必要がある。それも大切な能力だ。

発表すること、意見表明をすること、自己表現をすることは、力として身につけておいた方がいい。なのに、積極的でないからと言って、毎時間その力をつける機会を放棄することは、みんなにとって大きな損失になる。だから私は当てることを前提に授業をしたくないし、みんなの自己表現する力を奪いたくない」

モノ言わない学校は

人権学習をすることで、子どもたちは自分事と感じられたり、人となりが合ったりして、「自分も頑張ろう」「しつかりしよう」と思えてきたように思います。それは誰かに、「しなさい」と言われて仕方なくするのはなく、自ら自発的にやる気になった証です。

「見せましよう野球の底力を」覚えてますか？ 元プロ野球の

嶋選手が、東日本大震災のあとに発した宣言。心に響きました。そして大きな力が湧き上がった気がしました。これだって立派な人権学習です。となれば、皆さんにもそんな人権学習の経験はあるのではないのでしょうか。

いつも思います。「これ読んでくれているのかなあ」と。よければこの機会に、皆さんのそんな経験を教えてもらえませんか。※HPでお待ちしています。

発表すること、行動に移すことは、面倒くさいことかもしれませんが、でもだからといって、モノ言わない社会、行動に移さない社会は、モノ言えない社会、行動に移せない社会へと変質していきま

す。そんな社会は、世の中をおかしな方向に進めてしまいかねません。面倒だからとか、積極的でないからといって互いの思いを伝え合えない学校が望ましい環境とは思えません。とりわけ教育においては大切なこと。肝心な時に肝心なことがちゃんと見え、そんな社会でありたいものです。できれば十代までにそんな経験はしておいた方がいいでしょう。それは得難い一生の財産になりますから。